コロナ急落で
今やるべきこと
やっていけないこと

1. いま何が起きているのか？

（出所）NYダウ平均株価指数（Bloomberg）

	急落前高値からの下落率	急落前高値までに回復する期間
コロナ急落（2020年）	-33.9%（5週間）	？？？
ブラックマンデー（1987年）	-33.5%（3ケ月）	1年10ケ月
ITバブル崩壊（2000年）	-48.5%（2年3ケ月）	6年2ケ月
世界金融危機（2008年）	-58.8%（1年6ケ月）	5年2ケ月

2020年3月5日、コロナ急落始まる

・当初は中国やアジアで起きた対岸の火事

↓

・欧米で患者数急増（トム・ハンクス感染報道）

↓

・WHOによるパンデミック宣言

↓

・3月5日、NYダウ株価、2013ドルの急落

↓

・高値（2月19日）から安値（3月23日）まで

5週で34%のマイナス

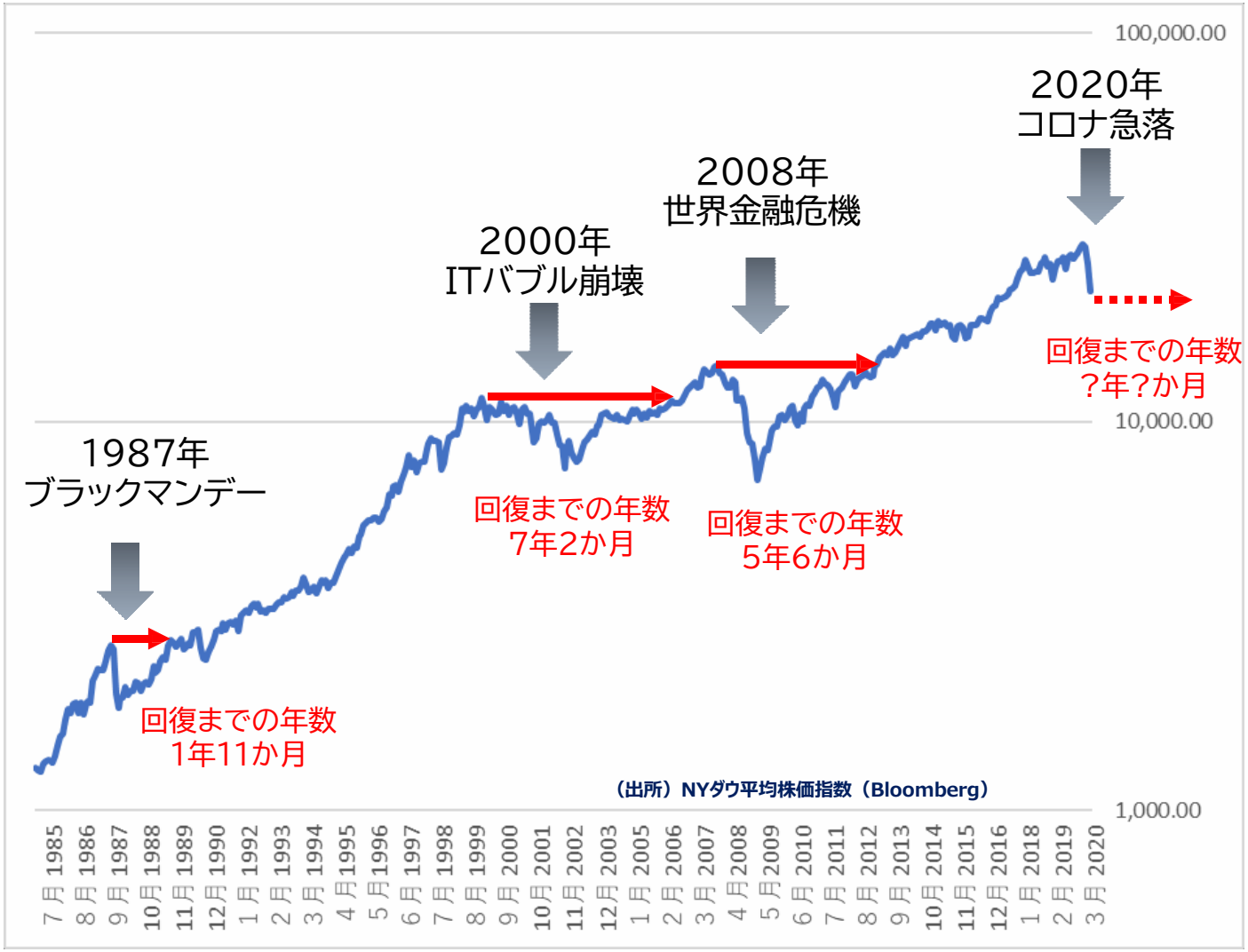
↓

・日本株、その他の市場も大きく下落

過去の大暴落と比較すると、

世界金融危機時の半分程度の下落

2. どこまで下がるのか？



コロナウィルスの終息
見通しが立たない限り
市場は回復しない（？）

↓

いつ終息するかは
誰にもわからないが
いつかは終息する

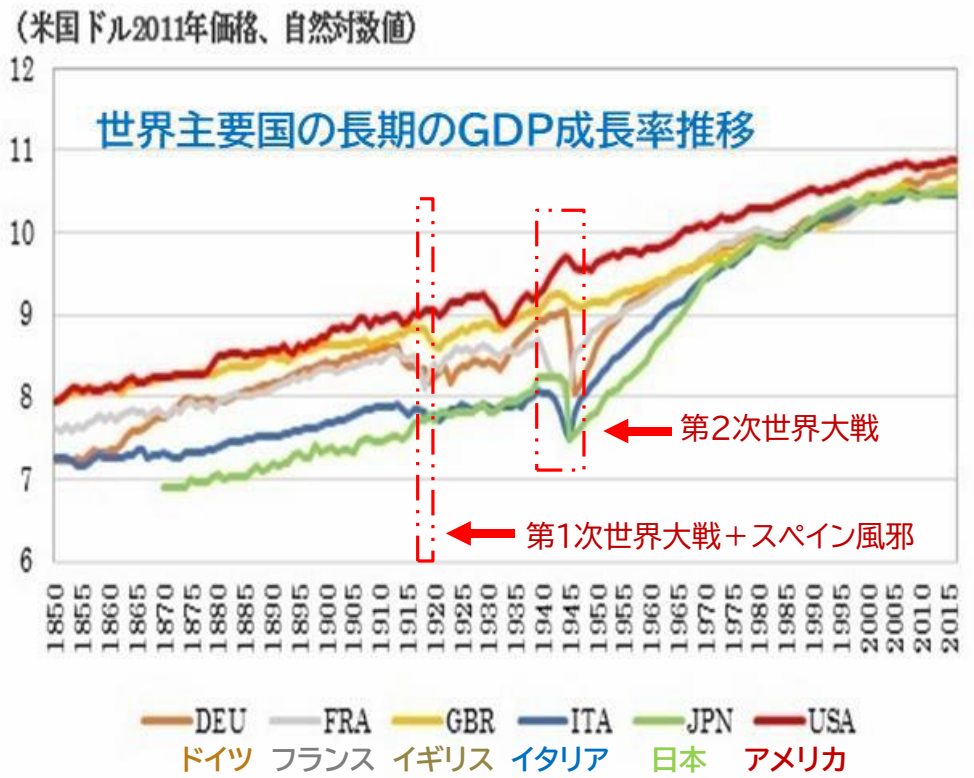
↓

しかしながら
終息が長引く程
景気に悪い影響

↓

通常の景気後退
ならば、2-3年で
市場は回復するが・・・

3. 1918年パンデミック、スペイン風邪の場合



(注)この図における各国の実質GDPは、MPD2018におけるcgdppc(国際比較用に作成された一人当たり実質GDP)を用いている。

(データ出所) University of Groningen, Maddison Project Database 2018

・1918年1月から1920年12月まで、
世界で5億人が感染し、1億人が死亡した
(世界人口の4分の1)

・米国では50万人が死亡し、
米国人の平均年齢が12歳も低下した

・日本では、人口5500万人のうち
2300万人が感染し、39万人が死亡した

・若年成人の死亡率が高いのが特徴

・1918年～20年は、第1次世界大戦の影響を被ることもあり、戦場になった欧州各国は軒並みGDPがマイナス成長、日本と米国のGDPはプラス成長

・こんなことが起きても世界経済は成長を続ける

4. いま何をなすべきか？

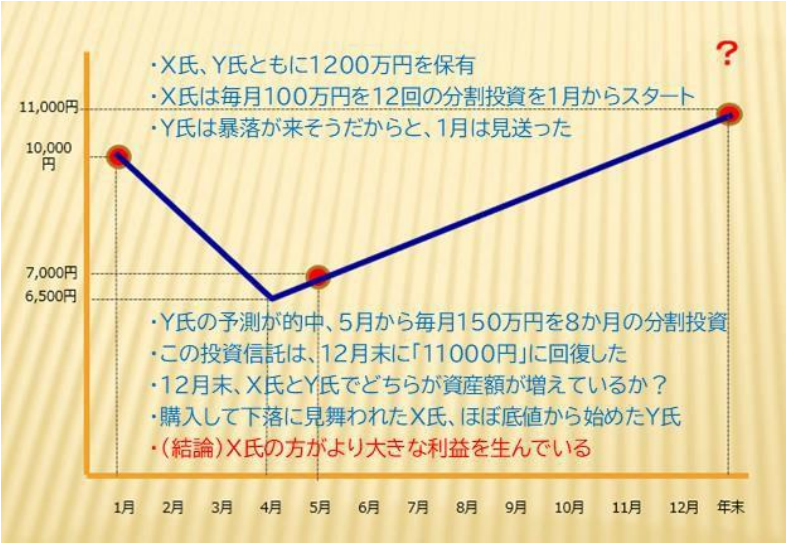
コロナウィルスの終息
見通しが立たない限り
市場は回復しない（？）

いつ終息するかは
誰にもわからないが
いつかは終息する

しかしながら
終息が長引く程
景気に悪い影響

リーマンショック級の
経済恐慌に発展した
として5-8年で回復
（シナリオB）

通常の景気後退
ならば、2-3年で
市場は回復するが・・・
（シナリオA）



この1年・12回の分割投資を

シナリオAでは「24～36回」に！

シナリオBでは「60～96回」に！

要は、『積立・分割投資の継続』ということ